

 **ドッグレスキューしおんの会** 2006年8月設立で、10年12月にNPO法人に認証された。会員40人。4月の熊本地震で被災したペットのため、全道から義援金を集め、8月に51万円を現地の動物支援団体に贈った。問い合わせは福沢代表 ☎090・9516・4746。

# リーダー犬は星になった

【浜中】捨て犬や野犬、迷い犬を保護し、ケアしている釧路管内浜中町のNPO法人を支えた犬がいる。NPOの「一員」として、保護された犬を時には優しく見守り、時には厳しくし加って、270匹を新たな飼い主の下に送り出した。凜として、賢く、誰からも愛された「星子」(雌)は、9月に14年半の生涯を終えた。

(厚岸支局 拝原稔)

浜中町のNPO法人「ドッグレスキューしおんの会」代表の福沢智子さん(54)は目を潤ませながら、自宅にある星子の祭壇に手を合わせた。

星子の体調が急変したのは8月下旬。全身が発作でけいれんし、立つこともできなくなり、衰弱していった。福沢さんは主宰するフラワーアレンジメント教室の仕事をすべて断り、自宅で点滴治療を施したものの、9月10日の夜、福沢さんの胸の中で眠るように息を引き取った。「笑っているような、幸せな死に顔だね」。星子を知る人たちは声をそろえ、涙をこぼした。

福沢さんと星子の出合いは2002年2月のしほれる日だった。雪の中に埋もれた袋から、猫のような鳴き声が聞こえた。ひもで固く閉じられた袋を開けると、生まれてばかりの7匹の子犬がいた。捨て犬だった。福沢さんの自宅に運び、ストーブで温めたが、星子だけはなかなか動かなかった。「この子だけはダメかなと思った」と振り返る。額に小さな星のような模様があったことから「星子」と名付けた。

浜中の酪農地帯では、野犬が乳牛を襲うのを防ぐため、町が犬を駆除することがある。人の都合で捨てられる犬も後を絶たなかった。福沢さんは06年8月、捕獲されそうになっていた子犬3匹を見つけて保護したのを機に、しおんの会を結成した。「人にたくさんの愛情を注いでくれる犬がなぜ、人間の勝手な都合で命を失わなくてはいけないのか」。星子を救った時の憤りが原点にあった。

## 浜中のNPO 保護した犬 しつけ協力

しおんの会は、浜中町内で保護した犬をケアし、新しい飼い主に譲る活動をしている。人間にたたかれた記憶などが残り、人を寄せ付けない犬もいる。野犬だった犬は、捕まえるのさえ一苦労だ。犬のしつけという難題を解決してくれたのが、星子だった。

保護した犬と一緒に酪農地帯の広い草原を走り回り、群れのリーダーになった。他の犬の動きを常に気にかけて、人からおやつをもらう時は仲間がそろうのを待った。犬同士がけんかしたり、人を不必要に威嚇したりすると、容赦なくしなかった。

「星子は人と犬の理想の関係を身をもって示してくれた。星子なしには、会は成り立たなかった」と福沢さんは振り返る。星子が10年間で面倒を見た270匹はインターネットなどで活動を知った札幌や帯広、苫小牧など全道の愛犬家の下へ巣立った。

「星子は優しいから『あんまり無理しないでね』と言っのかな。でも、人も犬も幸せに暮らせる社会になるまではね」。福沢さんは星子を失った喪失感と迷いを振り切るように、星子の遺影に語りかけた。



天国に旅立つ8日前の星子と福沢さん。「しおんの会」にとって、星子はなくてはならない存在だった=9月